

尚らわたりし事と丁寧に之を其親圃の記に若くは義  
事ある事ありし之も皆日わさし且商人の庇のためなき事  
をりし事を知りし必人怪しまんといふをもくもくし  
親圃も又玄侯の知已なり定て其説を以て記す所ありし事  
候ふおわく其言不徒いふ之も息其達をりし東江せ  
め治士の病代漢しむ後難言の事遂て二月十六日江戸を奔  
し京に還りし事を見し其候後又治圃の招辟ありしと  
之も甚く又西江に奔病し京師に終り凡そ奉に拾六士の事  
いふ事なきし人の事おわたりし事候ふもくもく其家  
の記しし事著し親圃と交りし事甚くも程の同しし事

さゆありし

大石氏僕

大石良雄赤穂の城を退く候將其城にありし事を辨し京へ  
参りし事候も候所の奴僕八州あるの同城にありし事候  
いふし我も此信しし事候も候所の奴僕八州あるの同城にありし事候  
おもひし事候も候所の奴僕八州あるの同城にありし事候  
たしし事候も候所の奴僕八州あるの同城にありし事候  
ゆふ地ありし事候も候所の奴僕八州あるの同城にありし事候  
何れを見しし事候も候所の奴僕八州あるの同城にありし事候

たきい物もー視の入り箱にうつあをあたは水の金武拾行  
まかり有りふををめー是をさくあ府八冊大不息まきてた  
ちふ投返ー是ののさみそをーを後うねんさのかりりんや  
母夜殿のふまふあーなを流す我ふさささう限あー中ー  
口惜ーさふおめくと城を明くさい由何ふささう今か  
こもんーさささささささささささささささささささささ  
止のいとしうと我ちやゆさうく餘ふあささのあささの  
せ今さひさうた車をとて善押さうらうわさ紙川さうらて堤  
の二編さささささの奴さ人つささかさをささささささささ  
若くー江戸にきー日汝をつさささささささささささささ  
さあさささささささささささささささささささささささ  
まさささささささささささささささささささささささ  
はく順ささささささささささささささささささささささ  
城のの医生の家ささささささささささ其國人の汚之義士の奴小和家信  
ささの者さささささささささささささささささささささ

池大雅 附妻玉開

大雅池大諱云名 の利素 字は貞成通名秋平書画小武を九段小  
推とさささ京師の人為人蕭毅寛厚をりて心をわさささささ  
物と比して考も命一志を行はぬ味放ささささささ